

教育学科

教育学 ICT コース

1 年生

(講義)		科目名： 専門研究 I		講師：山田 哲史・内山 世璃奈	
科目概要・目標	心理学に関する著名な研究の事例を簡易に紹介し、今日広く知られている基礎的な理論がどのような内容を根拠にして提唱されているのかを理解する機会を提供したい。こうした形での学習はそれぞれの心理学の理論に関して深い理解が得られるとともに、印象深いものとなることから、心理学に関する理論が教養として身につくばかりでなく、その後に各学生が国家試験をはじめ、検定試験や採用試験などで登場する心理学関連の問題の解析にも役立つことが考えられる。				
	教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。		
	期末試験		後日発表		
	回数		授業内容		
	第1回		オリエンテーション/ 心理学とは		
	第2回		やる気について		
	第3回		睡眠について		
	第4回		ファミリア・ストレンジャーと集団について		
	第5回		流行症候群について		
	第6回		依存について		
	第7回		ストレスについて		
	第8回		選択的な情報接触について		
	第9回		対人恐怖について		
	第10回		被害妄想について		
	第11回		成功回避動機について		
第12回		自分の心を欺くことについて			
第13回		雑音に埋もれた神秘的なことについて			
第14回		明らかな誤りについて			
第15回		暴力シーンの影響について			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(講義)		科目名:音楽		講師: 樋上 莊一	
科目概要・目標		本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。なお、スクーリング修了試験では、ピアノ実技試験が行われる。			
教科書		・楽譜が読める ステップ12 ・保育児童福祉要説 ・プリント(授業で配布)			
提出課題		レポート課題1 設題1: わらべうた及び明治期、大正期、昭和初期、戦後のそれぞれの時期に作曲されたこどもの歌の中から1～2曲ずつを取り上げ、それらの歌の特徴について、歴史的背景に触れながら述べよ。 <ポイント> 日本古来より伝承されてきたわらべ歌と、西洋音楽理論に則って作られてきた明治期以降の子供の歌の作曲の経緯の相違を考えるとともに、明治期以来の子供の歌も、作曲された曲が歴史的背景によって明確な特徴のあることを、実際にその時代の曲を取り上げながら考察する。			
学修のポイント		1. 音楽の指導に必要な基礎事項(五線譜、音部記号と音名、音符と休符など)について 2. 基本的事項(拍と拍子、拍子の種類と指揮棒の振り方)について 3. 音程について 4. 音階(長音階、短音階)と調について 5. 楽譜に用いられる記号と標語について			
期末試験		設題 : 音楽理論について(学修のポイント全般について)。			
回数		授業内容			
第1回		ガイダンス 五線譜の読み方 (五線譜・譜表・音名・音符・休符・など)			
第2回		五線譜の読み方②(音符・休符・リズム・拍) 拍子と拍子記号			
第3回		様々な記号と標語			
第4回		復習テスト 日本古来より伝承されてきたわらべ歌と、明治以降の唱歌等について			
第5回		日本古来より伝承されてきたわらべ歌と、明治以降の唱歌等について②			
第6回		音楽史の大きな流れ バロックの音楽(音楽鑑賞)			
第7回		古典派の音楽(音楽鑑賞)			
第8回		ロマン派の音楽(音楽鑑賞)			
第9回		20世紀の音楽(音楽鑑賞)			
第10回		さまざまな記号と標語 音程、音階と調・調号			
第11回		復習テスト(記号と標語)① 音階と調・調号(復習)			
第12回		さまざまな記号と標語 和音について(和音とコードネーム)			
第13回		復習テスト(記号と標語)②			
第14回		学修のポイント (音楽理論全般)について			
第15回		期末試験について (音楽理論全般)			
第16回		期末試験			
成績評価		出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
		期末試験	20点	持ち込み: 可 教科書のみ	
		レポート	20点	下書きにおいて評価する	
		提出物	30点	宿題・復習テスト・音楽鑑賞感想	
備考		・忘れ物は減点の対象とする ・授業の進み具合により、内容が変更になることがある。			

2025年度 前期

(講義)		科目名:文章表現(教育学科)		講師:仁井田 和也・山田 哲史	
科目概要・目標	通信教育では、レポートを書くための表現力が要求される。本科目では、レポート作成に必要な「書く」技術の基礎訓練を行う。したがって、目標とされるのは、簡潔で明快な表現法である。 文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ・わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習していく。				
教科書		随時資料を配布する			
提出課題	レポート設題 1	学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。			
		このレポートは文章表現に関する論文であるから、特に論点を明確にして段落や文章校正に気を配りながら文章を書くこと。また、わかりやすい言葉で文法・文字表現などにも十分留意して書くこと。			
	学修のポイント1	「バリアフリー」と町の景観について		各テーマで、自分の主張を絞り、構成を十分に考えてから作成に取り組むこと。一般論に止まらず、自分の主張を裏付けする情報などを引用することで、自分の主張に説得力を持たせるようにする。また、論理展開として、主張に一貫性があるかにも気を付けて書き、終わったら必ず読み返して、自己点検することも忘れないこと。	
	学修のポイント2	少年犯罪について			
	学修のポイント3	IT社会化について			
	学修のポイント4	環境破壊について			
	学修のポイント5	リサイクルについて			
学修のポイント6	自殺の予防対策について				
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第 1 回		オリエンテーション		作文・レポート・論文の違いについて	
第 2 回		レポートの表現について			
第 3 回		IT社会化について			
第 4 回		「バリアフリー」と町の景観について			
第 5 回		学校教育における「生きる力」の育成について		山田哲史先生が実施する	
第 6 回					
第 7 回					
第 8 回					
第 9 回		少年犯罪について			
第 10 回		文献の探し方について			
第 11 回		環境破壊について			
第 12 回		リサイクルについて			
第 13 回		幸福の哲学について			
第 14 回		期末試験対策			
第 15 回		期末試験			
第 16 回		科目修了試験			
成績評価	30点	75%以上の出席を必須とする。			
	40点	持ち込み可。論述式。			
	30点	授業態度、提出物などによって評価する。			
備考		授業中の居眠り、私語、許可のない携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価する。			

(講義)		科目名:法学概論		講師: 森奈祐	
科目概要・目標	社会福祉の専門家には、憲法第25条に定める生存権の保障を実現するため、様々な社会保障、社会福祉諸制度やそれにかかわる行政機関への手続きのための知識が必要である。そのため、憲法、民法、行政法の基礎知識を習得することは必要である。 この科目では、それらの学修に先立っていわゆる法学入門に相当する法や法学一般について学び、研究する。				
教科書		伊藤真『伊藤真の法学入門』日本評論社			
提出課題	レポート設題1	基本的人権の尊重について述べよ			
		基本的人権の意義について考えること。基本的人権が成立した背景、さらに一般的な特色についてもまとめること。			
	学修のポイント1	教育を受ける権利と義務について			
	学修のポイント2	親権について			
	学修のポイント3	契約の自由について			
	学修のポイント4	罪刑法定主義について			
	学修のポイント5	法の種類について			
	学修のポイント6	法の段階構造について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション、法と道徳			
第2回		近代市民法原理について			
第3回		契約の自由について			
第4回		憲法について			
第5回		基本的人権の尊重について①			
第6回		基本的人権の尊重について②			
第7回		刑法について			
第8回		罪刑法定主義について			
第9回		民法について①(総則・物権)			
第10回		民法について②(債権)			
第11回		親権について			
第12回		法人について、法の種類、法の段階構造			
第13回		行政法について			
第14回		労働法について			
第15回		期末試験			
第16回		科目修了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	授業態度、グループワーク等への参加、授業中の発言等・積極性、提出物期限を評価する。		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

(講義)	科目名:生活の中の福祉		講師: 横山由里
科目概要・目標	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会で必要な生活の中の福祉とは何か、その考え方や対象となる様々な人々に必要な福祉にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。		
教科書		山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。	
提出課題	レポート設題1	少子高齢化と福祉についてまとめ、今後の福祉のあり方について述べよ。	
	学修のポイント1	ライフサイクルと福祉について	
	学修のポイント2	福祉の捉え方と援助について	
	学修のポイント3	ナショナルミニマムについて	
	学修のポイント4	ノーマライゼーションについて	
	学修のポイント5	障がい者と福祉について	
	学修のポイント6	低所得者と福祉について	
期末試験		後日発表	
回数		授業内容	
第1回		オリエンテーション	
第2回		学修のポイント①ライフサイクルと福祉について	
第3回		学修のポイント④ノーマライゼーションについて1	
第4回		学修のポイント④ノーマライゼーションについて2	
第5回		少子高齢化と福祉①	
第6回		少子高齢化と福祉②	
第7回		学修のポイント⑥低所得者と福祉について	
第8回		学修のポイント②福祉の捉え方と援助について1	
第9回		学修のポイント②福祉の捉え方と援助について2	
第10回		学修のポイント③ナショナルミニマムについて	
第11回		学修のポイント⑤障がい者と福祉について	
第12回		さまざまな福祉サービス	
第13回		さまざまな福祉施設①	
第14回		さまざまな福祉施設②	
第15回		期末試験	
第16回		科目終了試験	
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	20点	
	授業内評価	30点	課題提出期限が遅れたら減点 1回5点
		20点	積極的な授業態度
備考		積極的に頑張りましょう。 参考文献：東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。	

2025年度前期

(実技)		科目名:音楽実技ⅠA(教育)		講師: 樋上 一		
科目概要・目標	1. 本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身に付け、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習活動をする。					
	教科書		*標準バイエルピアノ教則本 *こどものうた名曲アルバム			
	試験	中間	第1回	バイエル No. 14, 18		*楽譜は見てよい
			第2回	バイエル No. 19 21		
			第3回	バイエル No. 24, 26		
第4回			バイエル No. 27, 31			
期末	バイエル(暗譜) No. 35, 37		*暗譜演奏。			
回数		授業内容と、練習及び合格目標				
第1回		*ガイダンス (楽器の扱い方、授業の進め方の確認)				
第2回		*楽譜のの読み方とピアノ演奏について *バイエルP.6, 7				
第3回		*バイエル P.6, 7 *バイエル No.7				
第4回						
第5回		*バイエル No.10, 14, 18				
第6回						
第7回		第1回中間テスト (バイエル No.14, 18)				
第8回						
第9回		*バイエル No.19				
第10回						
第11回		*バイエル No.21				
第12回						
第13回		第2回中間テスト(バイエル No.19, 21)				
第14回						
第15回		*バイエル No.24, 26				
第16回						
第17回		*バイエル No.24, 26				
第18回						
第19回		第3回中間テスト(バイエル No.24, 26)				
第20回						
第21回		*バイエル No.27 *幼児歌曲				
第22回						
第23回		*バイエル No.31 *幼児歌曲				
第24回						
第25回		第4回中間テスト(バイエル No.27, 31)				
第26回						
第27回		期末試験準備 (バイエル No.35,37)				
第28回						
第29回		期末試験準備 (バイエル No.35,37)				
第30回						
第31回		期末試験 (バイエル No.35, 37)				
第32回						
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。			
	中間テスト	20点	4(5－1)×4			
	期末試験	10点	8(10－2)			
	配点曲	40点	バイエル 4点×1 バイエル・P.6. 7. バイエル 3点×10 No.7, 10, 14, 18, 19, 21, 24, 26, 27, 31, 35, 37			
備考		大学スクーリング修了試験課題:No.18, 19, 40, 49, 52				

2025年度 前期

(実技)		科目名:音楽実技ⅠA(B群:経験者)		講師:樋上 莊一	
科目概要・目標		1. 本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身に着け、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習活動をする。			
教科書		*標準バイエルピアノ教則本 *こどものうた名曲アルバム			
試験	中間	第1回	バイエル No. 35, 37		*楽譜は見てよい
		第2回	バイエル No. 45, 46		
		第3回	バイエル No. 49, 52		
		第4回	バイエル No. 55, 60		
	期末	バイエル(暗譜) No. 62		*暗譜演奏。	
回数		授業内容と、練習及び合格目標			
第1回		*ガイダンス (楽器の扱い方、授業の進め方の確認)			
第2回		*楽譜のの読み方とピアノ演奏について *No.35			
第3回		*バイエル No.35, 37			
第4回		*バイエル No.35, 37			
第5回		*バイエル No.35, 37			
第6回		*バイエル No.35, 37			
第7回		第1回中間テスト (バイエル No.35, 37)			
第8回		第1回中間テスト (バイエル No.35, 37)			
第9回		*バイエル No.45, 46			
第10回		*バイエル No.45, 46			
第11回		*バイエル No.45, 46			
第12回		*バイエル No.45, 46			
第13回		第2回中間テスト(バイエル No.45, 46)			
第14回		第2回中間テスト(バイエル No.45, 46)			
第15回		*バイエル No. 49, 52			
第16回		*バイエル No. 49, 52			
第17回		*バイエル No. 49, 52			
第18回		*バイエル No. 49, 52			
第19回		第3回中間テスト(バイエル No.49, 52)			
第20回		第3回中間テスト(バイエル No.49, 52)			
第21回		*バイエル No.55, 60			
第22回		*バイエル No.55, 60			
第23回		*バイエル No.55, 60			
第24回		*バイエル No.55, 60			
第25回		第4回中間テスト(バイエル No.55, 60)			
第26回		第4回中間テスト(バイエル No.55, 60)			
第27回		期末試験準備 (バイエル No.62, 65)			
第28回		期末試験準備 (バイエル No.62, 65)			
第29回		期末試験準備 (バイエル No.62, 65)			
第30回		期末試験準備 (バイエル No.62, 65)			
第31回		期末試験 (バイエル No.62)			
第32回		期末試験 (バイエル No.62)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	中間テスト	20点	5×4		
	期末試験	10点	10		
	配点曲	40点	バイエル No.35, 37, 45, 46, 49, 52, 55, 60, 62, 65		
備考		大学スクーリング修了試験課題:No.55, 60, 62, 66, 73, 75			

(講義)		科目名:教養基礎講座		講師:室山俊浩・山田哲史	
科目概要・目標	近い将来、教員採用試験で出題される一般教養の試験対策を意識して問題演習を行う。各問題を解析していく中で、確実な得点力を身につけるために必要な知識や解法について注目していきたい。なお、このような問題演習は最終学年になってから始めていてはとても試験には間に合わないことは明白である。したがって時間をかけてこうした問題を解き進め、学習を地道に積み上げていきたい。				
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		持ち込みなし。内容は後日発表。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		社会科学・人文科学①			
第3回		自然科学①			
第4回		社会科学・人文科学②			
第5回		自然科学②			
第6回		社会科学・人文科学③			
第7回		自然科学③			
第8回		社会科学・人文科学④			
第9回		自然科学④			
第10回		社会科学・人文科学⑤			
第11回		自然科学⑤			
第12回		社会科学・人文科学⑥			
第13回		自然科学⑥			
第14回		社会科学・人文科学⑦			
第15回		自然科学⑦			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

2025年度前期

(講義)		科目名:ICT基礎 I		講師:深谷高史	
科目概要・目標		情報系科目を教えるためのコンピュータ・ネットワークに関する基礎的な知識を学ぶ。その一環として、ITパスポートの取得を目指すためのさまざまな学習を行う。とくに資格取得のための勉強の仕方を身につけていただく。			
教科書		[令和7年度]いちばんやさしいITパスポート 絶対合格の教科書＋出る順問題集(SBクリエイティブ)			
期末試験		ITパスポート試験の過去問のうち、授業で扱った範囲の問題を出題する。			
回数		授業内容			
第1回		ITパスポート試験の概要と勉強方法、企業活動			
第2回		企業活動			
第3回		企業活動			
第4回		法務			
第5回		法務			
第6回		経営戦略マネジメント			
第7回		経営戦略マネジメント			
第8回		技術戦略マネジメント			
第9回		技術戦略マネジメント			
第10回		システム戦略			
第11回		システム戦略			
第12回		開発技術			
第13回		開発技術			
第14回		プロジェクトマネジメント			
第15回		プロジェクトマネジメント			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	ITパスポート試験の過去問のうち、授業で扱った範囲の問題を出題する。持ち込み不可。		
	授業内評価	30点	授業内課題、受講態度など		
備考		授業中は学習に集中するため、スマートフォンをカバンの中に入れてください。			

(実技)		科目名:情報処理基礎演習Ⅰ		講師:高橋直子		
科目概要・目標	Wordを使って、文字入力の練習と いろいろな文書作成およびグラフィカルな文書を作成できるようにする。					
教科書		なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)				
期末試験		実技試験(1枚の文書を作成し保存する。)				
回数		授業内容				
第1回		文字の入力と簡単な文書を作成				
第2回		定型文書の作成				
第3回		レポートや報告書の作成				
第4回		復習				
第5回		表作成の練習				
第6回		表のある文書の作成				
第7回		すこし複雑な表のある文書の作成				
第8回		画像など利用した文書の作成				
第9回		図形など利用した文書の作成				
第10回		簡単な地図のある文書の作成				
第11回		SmartArtなど利用した文書の作成				
第12回		縦書き文書の作成				
第13回		横置き文書の作成				
第14回		復習				
第15回		復習(期末試験対策)				
第16回		期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。			
	期末試験	40点				
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度			
備考		飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止				

(講義)		科目名:統計学		講師: 室山俊浩	
科目概要・目標	統計学と言っても本科目の内容は単なる公式の暗記のみにはとどまらない。私たちの生活の中にはさまざまな統計情報があふれている。この統計情報からどのように意味のある情報を引き出すか、さらに世の中に対してそれをどのように活かしていくかが重要である。本科目では、そのことを視野に入れつつ、統計学の基本的な事項をおさえ、将来自分でデータの収集と分析ができるような基礎を作っていく。				
教科書		小島實之『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社			
提出課題	設題 1	統計とは何かについて説明し、それを活用することの利点と注意点について述べよ。			
	設題 2				
	学修のポイント1	ヒストグラムについて			
	学修のポイント2	質的変数と量的変数について			
	学修のポイント3	標準偏差の利用方法について			
	学修のポイント4	相関について			
	学修のポイント5	正規分布について			
学修のポイント6	偏差値について				
期末試験		後日通知する			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション / 統計とはなにか			
第2回		統計を活用することの利点			
第3回		統計を活用することの注意点			
第4回		学修のポイント1 ヒストグラムについて			
第5回		平均値、中央値、最頻値について			
第6回		学修のポイント3 標準偏差の利用方法について			
第7回		学修のポイント4 相関について			
第8回		学修のポイント2 質的変数と量的変数について			
第9回		学修のポイント5 正規分布について			
第10回		学修のポイント6 偏差値について			
第11回		有意性の判断(仮説検定)			
第12回		回帰と予測			
第13回		分析方法			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	持ち込み可。論述式		
	授業内評価	30点	授業内課題。		
備考		提出物の締切は厳守すること。遅れた日数に応じて減点。 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。 無断の座席移動も禁止。			

科目名：		教師論		講師： 奥村 一成	
科目概要・目標	変化の激しい今日の社会において、学校教育においても様々な課題が生じている。この課題を解決するために、学校教育の主たる担い手である教員の役割が今まで以上に重要になっている。本科目では、教職とは何か、これからの教員に求められる資質は何か、教員の仕事と役割はどのようなものか、教員の権利や義務(服務・研修・身分保障などを含む)はどのように規定されているのかなど、教職を志す学生があらかじめ知っておく必要のある事項について考察する。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		津田徹、広岡義之『教職論』ミネルヴァ書房			
提出課題	レポート設題1	これからの教員に求められる資質能力について、具体例を挙げて述べよ。			
	学修のポイント1	教員は、聖職者か、労働者か、専門職か。			
	学修のポイント2	教員の役割と職務内容について			
	学修のポイント3	教員の服務と身分保障について			
	学修のポイント4	教員の研修について			
	学修のポイント5	教員の適性について			
	学修のポイント6	教職をめぐる諸問題について			
期末試験		(授業中に指示します。)			
回数		授業内容			
第1回		教師の歴史と教職観について 学修のポイント1 教員は、聖職者か、労働者か、専門職か。			
第2回		教職制度と教員に求められる資質について①			
第3回		教職制度と教員に求められる資質について②			
第4回		学校を取り巻く環境と教職の課題について①			
第5回		学校を取り巻く環境と教職の課題について② 学修のポイント6 教職をめぐる諸問題について			
第6回		レポート下書き作成			
第7回		教員の種類と職階について 学修のポイント2 教員の役割と職務内容について			
第8回		学修のポイント3 教員の服務と身分保障について			
第9回		学修のポイント4 教員の研修について			
第10回		学修のポイント5 教員の適性について			
第11回		保護者・地域・関係機関と教員について			
第12回		教育相談・進路指導と教員について			
第13回		教員の法規と学習指導要領について			
第14回		教科指導と教科外指導について 期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	授業中に指示 持ち込み不可		
	授業内評価	20点	課題(レポート・学修のポイント) 期日厳守(提出期限に遅れた場合は減点)		
		20点	誠実で積極的な授業態度重視		
備考		1限目の授業ですが、無遅刻・無欠席で頑張ってください。私語・居眠り厳禁。携帯電話の電源は切っておくこと。授業態度が悪く、改善が認められないときは、不合格とします。			

(講義)	科目名： 福祉と教育		講師： 山田哲史
科目概要・目標	これからの時代に求められるのは、正解が一つではない問題を考え、課題探求できる分析力と思考力を備えた人材を教育することである。福祉の現場においても、突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉を必要とする人に対して、その一人ひとりのニーズに応えて、問題を解決していくことが望まれる。そのためには、これまでわが国で主流とされてきた、一方通行型、知識注入型の教育方法を改め、学生が主体となって学修に取り組める学修環境を構成していかなければならない。福祉の時代に向けて真に必要な諸能力は何かを分析し、21世紀に求められる福祉人のあり方について考察する。		
教科書	指定なし。		
レポート	「福祉と教育」を学ぶ意義について述べよ。		
提出課題	学修のポイント1	日本で行われている教育方法の現状について	
	学修のポイント2	これからの大学教育について	
	学修のポイント3	教師の意識について	
	学修のポイント4	バ이스ティックの7つの原則について	
	学修のポイント5	これからの社会福祉と福祉教育について	
	学修のポイント6	上記5つ以外の内容で、「福祉と教育」について興味や関心を持ったことについてまとめよ。	
期末試験	(授業時に指示します。)		
回数	授業内容		
第1回	これからの社会福祉と福祉教育について(1)		
第2回	これからの社会福祉と福祉教育について(2)		
第3回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(1)		
第4回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(2)		
第5回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(3)		
第6回	「福祉と教育」を学ぶ意義について(4)		
第7回	日本で行われている教育方法の現状について		
第8回	これからの大学教育について		
第9回	バ이스ティックの7つの原則について(1)		
第10回	バイスティックの7つの原則について(2)		
第11回	教師の意識について(1)		
第12回	教師の意識について(2)		
第13回	「福祉と教育」をめぐって(1)		
第14回	「福祉と教育」をめぐって(2)		
第15回	期末試験		
第16回	科目終了試験		
成績評価	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	30点	持込み許可物件:指定の教科書、自筆のノート、授業時に配布のプリント	
	20点	授業中態度:携帯、居眠り、私語、飲食は厳禁	
	20点	課題提出状況	
備考	教育の効果を高めるためにも、授業には集中力を持続して積極的に取り組むようにしてください。授業中の携帯電話の使用、居眠り、飲食や私語は禁止します。これらのルールを守ることができない学生に対しては不合格とすることがありますので注意してください。		

(講義)	科目名:地域コミュニケーションワーク		講師:山田 哲史
科目概要・目標	本科目は、問題発見能力、問題解決能力を実践を通して深めていくことを目的としている。学生ひとりが目的意識を持ち、互いに支え合いながら課題解決に取り組むことで学生間の意思疎通を図り、コミュニケーション能力を高めることを期待する。		
教科書		適宜配布	
期末試験		授業時に通知する。	
回数	授業内容		
第1回	心の元気づくりについて		
第2回	レクリエーション支援におけるホスピタリティについて		
第3回	人が物事に夢中になる仕組みについて		
第4回	活動そのものの楽しさについて		
第5回	達成感からもたらされる楽しさについて		
第6回	対象者との意思疎通を促進する方法について		
第7回	成功体験を楽しむ方法について		
第8回	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法について		
第9回	アイスブレイキングについて		
第10回	アイスブレイキングが必要な場面について		
第11回	CSSプロセスについて		
第12回	プランの考案(1)		
第13回	プランの考案(2)		
第14回	プランの考案(3)		
第15回	プランの考案(4)		
第16回	プランの考案(5)		
成績評価	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	20点	この授業は後期まで延長して実施しますので、後期に実施予定です。詳細は後ほど案内します。	
	30点	評価ポイント:授業内課題・発表内容	
	20点	評価ポイント:授業態度・学習意欲・積極性・忘れ物有無	
備考	本授業は、ワークが中心となる為、進行状況によってはシラバスに変更が生じる可能性があります。より良いワークのためには受講生同士の協力が不可欠です。より良い学びとなるように自ら学ぼうとする姿勢を持って授業に臨んでください。授業形態によっては、授業内容を変更する可能性もあります。		

(講義)		科目名： 心理学概論	講師： 内山 世璃奈
科目概要・目標	現代社会が抱えるさまざまな問題と心理学の観点からアプローチできるようここでは心理学全体を見渡すことを目的とする。そこで、心理学とは何か、から始まり、心理学分野を「心の仕組み」、「心の問題を紐解く」、「心のケアと支援」、という3つの大きな領域から考え、心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きについて学修していく。本科目を学ぶことで、心理学とはどのような学問か、その体系を知ることができ、かつ考え方が理解できる。		
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座【共通科目】2 心理学と心理的支援』 中央法規	
提出課題	レポート設題1	人格形成に及ぼす環境要因とその役割について述べよ。	
	レポート設題2	各発達段階の特徴について述べよ。	
	学修のポイント1	人格の諸理論について	
	学修のポイント2	人間の感覚・知覚・認知の特質について	
	学修のポイント3	人間の発達課題について	
	学修のポイント4	心理的アセスメント(見立て)について	
	学修のポイント5	対人関係の発展について	
学修のポイント6		心理療法について	
期末試験		後日発表	
回数		授業内容	
第1回		オリエンテーション/P1 人格の諸理論について	
第2回		P1・R1 人格の諸理論について	
第3回		P1・R1 人格の諸理論について 作成	
第4回		P3 人間の発達課題について	
第5回		P3 人間の発達課題について	
第6回		P3 人間の発達課題について	
第7回		R2 各発達段階の特徴について	
第8回		R2 各発達段階の特徴について	
第9回		R2 各発達段階の特徴について	
第10回		P4・P6 アセスメント・心理療法について	
第11回		P4・P6 アセスメント・心理療法について	
第12回		P5 対人関係の発展について	
第13回		P5 対人関係の発展について	
第14回		期末対策	
第15回		期末試験	
第16回		科目終了試験	
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点	
	授業内評価	40点	・レポート提出期限を守れた場合は、加点します。 ・備考に書かれているものを守れているか。
備考		授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度注意しても直らない場合は、受講は認めず退出していただきます。	

教育学科

教育学 ICT コース

2年生

2025年度前期

(実技)		科目名:音楽実技ⅠC		講師: 樋上 莊一	
科目概要・目標	音楽の基礎的知識を正しく身につけることを目指す。				
	1.楽譜に関する基本的知識を正確に身につけ、楽譜を読む能力を養う。				
	2. バイエルを中心として、保育活動に必要なピアノ演奏技能を、初歩から学ぶ。				
	2. 幼児歌曲の指導能力を身に付けるため、歌うことなど、基礎技能に習熟するための準備を始める				
教科書		*標準バイエルピアノ教則本 *こどものうた名曲アルバム			
試験	中間	第1回	バイエル No.55, 60		*楽譜は見てよい
		第2回	バイエル No.65, 66		
		第3回	幼児歌曲の弾き歌い(2曲準備する)		
		第4回	伴奏付け(コード伴奏/2曲準備する)		
	期末	第1回	バイエル(暗譜) No.75		*暗譜演奏。
		第2回	幼児歌曲の弾き歌い(2曲準備する)		
回数		授業内容と、練習及び合格目標			
第1回		*ガイダンス (楽器の扱い方、授業の進め方の確認)			
第2回		*バイエル No.55, 60 *幼児歌曲			
第3回		*バイエル No.55, 60 *幼児歌曲			
第4回					
第5回		第1回中間テスト (バイエル No.55, 60)			
第6回					
第7回		*バイエル No.65, , 66 *幼児歌曲			
第8回					
第9回		*バイエル No.65, , 66 *幼児歌曲			
第10回					
第11回		第2回中間テスト(バイエル No.65, 66) *幼児歌曲 *バイエル NO. 73			
第12回					
第13回		*幼児歌曲 *バイエル NO. 73			
第14回					
第15回		*コードネームについて *幼児歌曲			
第16回					
第17回		第3回中間テスト(幼児歌曲 2曲)			
第18回					
第19回		*コードネームについて *幼児歌曲			
第20回					
第21回		*コードネームについて *幼児歌曲			
第22回					
第23回		第4回中間テスト(コード伴奏 2曲) *バイエル No.75			
第24回					
第25回		*期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)			
第26回					
第27回		*期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)			
第28回					
第29回		*第1回 期末試験 (バイエル No.75)			
第30回					
第31回		*第2回 期末試験 (幼児歌曲 2曲)			
第32回					
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	中間テスト	20点	4(5－1)点×2(バイエル), 5点×2(幼児歌曲)		
	期末試験	20点	8(10－2)点(バイエル), 10点(幼児歌曲 2曲)		
	配点曲	30点	14点 バイエル:(2点×4) 55, 60, 65, 75 / (3点×2) 66, 73 16点 (2点×8) 幼児歌曲 5曲 / 伴奏付け(コード伴奏)3曲		
備考		大学スクーリング修了試験課題:No.18, 19, 40, 49, 52			

2025年度前期

科目名：音楽実技 I C(A群:初心者)		講師：樋上 荘一		
科目概要・目標	音楽の基礎的知識を正しく身につけることを目指す。			
	1. 楽譜に関する基本的知識を正確に身につけ、楽譜を読む能力を養う。			
	2. バイエルを中心として、保育活動に必要なピアノ演奏技能を、初歩から学ぶ。			
	2. 幼児歌曲の指導能力を身に付けるため、歌うことなど、基礎技能に習熟するための準備を始める			
教科書		*標準バイエルピアノ教則本 *こどものうた名曲アルバム		
試験	中	第1回	バイエル No.80, 83	* 楽譜は見てよい
		第2回	バイエル No.88, 94	
		第3回	幼児歌曲の弾き歌い(2曲準備する)	
		第4回	伴奏付け(コード伴奏/2曲準備する)	
	期末	第1回	バイエル(暗譜) No.91	* 暗譜演奏。
		第2回	幼児歌曲の弾き歌い(2曲準備する)	
回数		授業内容と、練習及び合格目標		
第1回		*ガイダンス (楽器の扱い方、授業の進め方の確認)		
第2回		*バイエル No.80, 83 *幼児歌曲		
第3回		*バイエル No.80, 82, 83 *幼児歌曲		
第4回				
第5回		*第1回中間テスト (バイエル No. 80, 83) *バイエル No.88		
第6回				
第7回		*バイエル No.88, 94 *幼児歌曲		
第8回				
第9回		*バイエル No.88, 94 *幼児歌曲		
第10回				
第11回		*第2回中間テスト(バイエル No.88, 94) *幼児歌曲 *バイエル No.82		
第12回				
第13回		*幼児歌曲		
第14回				
第15回		*コードネームについて *幼児歌曲		
第16回				
第17回		*第3回中間テスト(幼児歌曲 2曲)		
第18回				
第19回		*コードネームについて *幼児歌曲		
第20回				
第21回		*コードネームについて *幼児歌曲		
第22回				
第23回		*第4回中間テスト(コード伴奏 2曲) *バイエル No.75		
第24回				
第25回		*期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)		
第26回				
第27回		*期末試験準備 (バイエル No.75, 幼児歌曲 2曲)		
第28回				
第29回		*第1回 期末試験 (バイエル No.91)		
第30回				
第31回		*第2回 期末試験 (幼児歌曲 2曲)		
第32回				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	中間テスト	20点	5点×2 (バイエル), 5点×2(幼児歌曲)	
	期末試験	20点	10点(バイエル) 10点(幼児歌曲 2曲)	
	配点曲	30点	14点 バイエル : (2点×4) 83, 88, 91, 94 / (3点×2) 80, 82 16点(2点×8) 幼児歌曲 5曲 / 伴奏付け(コード伴奏) 3曲	
備考		大学スクーリング修了試験課題:No.55, 60, 62, 66, 73, 75		

(講義)		科目名:教育法規		講師: 木内 正範	
科目概要・目標	本科目では、幼稚園、小学校、中学校教諭等の教員を目指す人たちが教育法規に関する基礎的な知識を身につけ、教員採用選考試験問題を解けるようになること、そして教員となった折には、その知識を用いて学校における法的な諸課題に対応できるようになることを目標とする。そのために以下の3つの到達目標を設定する。 1) 教育法規を体系的に理解し、その主な内容について説明することができる。 2) 教員や教員採用選考試験受験生にとって必要最低限の教育法規に関する基礎知識を理解し、重要な用語について説明することができる。 3) 学校におけるさまざまな課題の中で、法的な観点から解決できる内容について根拠条文を明らかにして説明することができる。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり、特別支援教育にも深く携わってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
	教科書	山本豊『第四版 有権解釈に重きを置いた教育法規』学校図書			
提出課題	レポート設題1	教育公務員と一般の地方公務員との服務事項や研修に関する内容を述べよ。その際、同じところと異なるところについて整理して論述せよ。 【ポイント】県庁や市役所に勤務する地方公務員と公立学校に勤務する教育公務員との服務事項と研修の法的根拠(地方公務員法、教育公務員特例法)を比較し、その相違についてまとめる。			
	学修のポイント1	学校教育における教育法規の役割や意義について論述せよ。(P.2)			
	学修のポイント2	公立学校や私立学校における宗教教育や宗教的活動について法はどのように規定しているのか、論述せよ。(P.206 15条 P.218 50条)			
	学修のポイント3	学童児童又は学齢生徒に対しては、懲戒としての停学を行うことはできない。一方、公立の小・中学校では性行不良行為を繰り返すことで他の児童・生徒の教育に妨げがあると認められるときには、出席停止を命ずることができるとの規定がある。それぞれ根拠条文と停学と出席停止の違いを述べよ。また性行不良による出席停止の課題について述べよ。(P.72～74)			
	学修のポイント4	公立小学校の体育の授業である。その水泳指導中、担任の過失によって児童が水死してしまった。この場合、担任はどのような法的責任を負うか。また被害者側の請求を確実に補償するための規定についても論述せよ。(P.166)			
	学修のポイント5	教科書の使用義務と補助教材について法はどのように規定しているか。裁判例にも触れながら論述せよ。(P.54～)(P.58)			
	学修のポイント6	体罰と事実行為としての懲戒について述べよ。体罰を行った公立学校の教職員の法的責任について具体例を挙げて述べよ。(P.80～)(P.72)			
期末試験		設題は、事前に発表します。			
回数		授業内容			
第1回		自己紹介(進路希望等)レポート設題、学修ポイントの対応、第1章「教育法規のしくみと学び方」(P.2)、ディス「4月の学級経営のポイント？」			
第2回		教育基本法(P.8～) ディスカッション「ほめ方、しかり方」			
第3回		学校教育法(P.20～) ディスカッション「学級の人間関係づくり対策？」			
第4回		校長と教諭の職務(P.38～) ディスカッション「朝と帰りの会のポイント？」			
第5回		教育課程の編成(P.50) ディスカッション「宿題の意義と対応」			
第6回		校則(P.66) ディスカッション「安全で楽しい教室環境づくり」			
第7回		教員の服務(P.82～) ディスカッション「保護者からの苦情対応」			
第8回		人権をめぐる動き(P.110) ディスカッション「障害がある子の就学支援は？」			
第9回		人権教育・人権啓発(P.126) ディスカッション「学級懇談会での給食の説明？」			
第10回		特別支援教育と法規(P.134～) ディスカッション「通常の学級における発達障害の子の対応」			
第11回		学校保健・安全と法規(P.150～) ディスカッション「障害がある子への対応？」			
第12回		児童福祉・男女共同参画と法規(P.168～) ディスカッション「保護者との信頼関係づくりをどう進めるか？」			
第13回		生涯学習社会と法規(P.182～) ディスカッション「公平な授業、行事を行うには？」			
第14回		図書館法(P.190～) ディスカッション「教職員集団の人間関係づくり」			
第15回		期末試験: 教科書等持ち込み可 60分間			
第16回		科目終了試験: 教科書等持ち込み不可 60分間			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	課題の意味を理解し、現場の実態を踏まえた私見		
	授業内評価	10点	ディスカッションでの発言内容(私見、具体性、建設的な意見等)		
		20点	授業態度(意欲、質問、意見等)		
		20点	提出物(学修ポイント・レポート)		
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。			

(講義)		科目名:算数		講師: 松村久美子	
科目概要・目標		算数・数学科は、積み重ねの学修であるので、最も習得が難しい教科であることを認識することが必要である。同様に、指導も難しく、指導する段になって初めて、正確で広範な知識習得が必須であることに気づかされる。 この科目を学ぶことにより、指導者が必ず習得しておかなければならない①学習指導要領の重点と概要、②算数・数学科の教育内容と教育方法について高い理解に到達し、初等数学の指導にあたるための基礎を習得することができる。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校での教職経験をもち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実際を踏まえた実践的な知識を学ぶ。			
		教科書		①文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編』日本文教出版社 ②土屋修・佐々木隆宏『算数教育の基礎がわかる本』学術図書出版社	
提出課題	レポート設題1	『学習指導要領』における数学的活動について、導入の経緯とその充実や内容に関して述べよ。 ＜ポイント＞数学的活動を通して、主体的・対話的で深い学びを実現させるためには、どのような点に留意することが必要か考えること。			
	学修のポイント1	第1・2学年での数学的活動を通じた学習活動について			
	学修のポイント2	第3～6学年での数学的活動を通じた学習活動について			
	学修のポイント3	「数と計算」領域の指導内容について			
	学修のポイント4	「図形」領域の指導内容について			
	学修のポイント5	「測定」(1～3年)、「変化と関係」(4～6年)領域の指導内容について			
	学修のポイント6	「データの活用」領域の指導の内容について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		小学校学習状況調査の算数問題を解いてみる。算数科の目標①21②10			
第2回		数学的活動①23 73－75 導入の経緯①6－9 ②13－15 領域決め			
第3回		第1学年での数学的活動を通じた学習活動について①76－ 96-101			
第4回		第2学年での数学的活動を通じた学習活動について①102- 127-133			
第5回		第3学年での数学的活動を通じた学習活動について①134- 172-178			
第6回		第4学年での数学的活動を通じた学習内容について①179- 224-231			
第7回		第5学年での数学的活動を通じた学習活動について①232- 276-283			
第8回		第6学年での数学的活動を通じた学習活動について①284- 314-321			
第9回		学習活動の見解 ②41-107-144-173-203－			
第10回		「数と計算」領域の指導内容について			
第11回		↓ ①42-49 ②104-105			
第12回		「図形」領域の指導内容について ①50-56 ②142-143			
第13回		「測定」「変化と対応」領域の指導内容について①61-66 ②200-202			
第14回		「データの活用」領域の活動内容について ①67-71 ②229-230			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	20点	教科書等の持ち物 提出物の期限遵守		
		20点	授業態度 発言・発表		
備考		ポイント・レポートでは、学習指導要領を理解し、教科書や小学校教科書から授業方法を学んだ上で、独創的な数学的活動の授業が構想できることを期待します。			

(講義)		科目名:国語(書写を含む)		講師:松村久美子	
科目概要・目標	言語生活	書写を含む国語(日本語)に関する基礎的・基本的知識理解を確かにするとともに、今日の国語国字問題や国語教育及び活について考える力を育てる。 あわせて、各自の言語生活の向上と世界の言語のひとつとしての認識力を持って母国語としての日本語を尊重し、良くしようとする態度と実践力を養う。			
		(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校での教職経験をもち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実際を踏まえた実践的な知識を学ぶ。			
教科書		金田一春彦『日本語 新版上下』岩波新書			
提出課題	レポート設題1	身近に見られる日本語の表現や理解に関する疑問点・問題点を見つけ、その類例を集めるとともに、その原因と解決法について見解を述べよ。 <ポイント>1. 書写を含む国語(日本語)に関して日頃気にしていることを明確にすること 2. 国語に関することについて、母国語、公用語、音声、文字、文法、語彙、文体、方言、敬語、言語施策等広い視点からとらえ考えること。 3. 国語力の向上や日本語の尊重に関して自分なりの実践工夫を大切にすること			
	学修のポイント1	子どもの母国語・国語の習得の諸相について			
	学修のポイント2	日本語の音声に関する基礎的知識と特徴について			
	学修のポイント3	日本語の文法に関する基礎的知識と特徴について			
	学修のポイント4	書写を含む日本語の文字及び表記法に関する基礎的知識と問題点について			
	学修のポイント5	敬語と方言に関する基礎的知識と課題について			
	学修のポイント6	日本語における国語国字問題について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		日本語の特徴 日本語は特異か平凡か 上～85 ひらがな筆順			
第2回		日本語の音声に関する基礎的知識と特徴について 上87-115			
第3回		日本語の音声に関する基礎的知識と特徴について 上116-131			
第4回		日本語の文字及び表記法に関する基礎的知識と問題点下1-46			
第5回		6年生教材「迷う」 日本語の文法下46-96			
第6回		日本語の文法に関する基礎的知識と特徴について 下97-158			
第7回		日本語の文法に関する基礎的知識と特徴について 下159-263			
第8回		日本語における国語国字問題について			
第9回		問題点・疑問点の解決法			
第10回		敬語と方言に関する基礎的知識と課題について			
第11回		ひらがなの基本 確かめ 子どもの母国語・国語の習得の諸相について ポイント1			
第12回		カタカナの基本(長音など) 正しい表記で書こう、誤用しやすい用語			
第13回		漢字の基本(筆順) 文章の基本的な書き方 重複表現			
第14回		実習令状などの手紙・ハガキの書き方			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	20点	教科書等の持ち物 提出物の期限厳守		
		20点	授業態度 発言・発表		
備考		レポートは学んだことをまとめる設題ではありません。自分で問題点・疑問点を見つけ、授業で学んだことを礎をして、資料を探し、原因や解決法など見解を書きましょう。			

(講義)		科目名:教養基礎講座		講師:室山俊浩・山田哲史	
科目概要・目標	近い将来、教員採用試験で出題される一般教養の試験対策を意識して問題演習を行う。各問題を解析していく中で、確実な得点力を身につけるために必要な知識や解法について注目していきたい。なお、このような問題演習は最終学年になってから始めていてはとても試験には間に合わないことは明白である。したがって時間をかけてこうした問題を解き進め、学習を地道に積み上げていきたい。				
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		持ち込みなし。内容は後日発表。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		社会科学・人文科学①			
第3回		自然科学①			
第4回		社会科学・人文科学②			
第5回		自然科学②			
第6回		社会科学・人文科学③			
第7回		自然科学③			
第8回		社会科学・人文科学④			
第9回		自然科学④			
第10回		社会科学・人文科学⑤			
第11回		自然科学⑤			
第12回		社会科学・人文科学⑥			
第13回		自然科学⑥			
第14回		社会科学・人文科学⑦			
第15回		自然科学⑦			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(講義)		科目名:理科		講師:奥村一成	
科目概要・目標	理科とは、宇宙がどのようにできて現在の姿になったのか、生命はどのように誕生して進化してきたのか、ということを実験あるいは調査結果をもとに、科学的に検証していく学問である。理科は物理学、化学、生物学、地学に大きく4分野に分けられているが、この授業では明確な境界を定めずに、自然現象について総合的に学んでいく。そして、科学的な目で物事を判断する基礎能力を身につけることを目標とする。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		滝川洋二、石渡正志「中学理科の教科書」 講談社			
提出課題	レポート設題1	自然選択(または自然淘汰)説について述べよ。			
	学修のポイント1	現在の大気は、どのように形成されたか述べよ。			
	学修のポイント2	環境問題が生態系に与える問題について述べよ。			
	学修のポイント3	太陽系における地球型惑星と木星型惑星の成因を述べよ。			
	学修のポイント4	地震は、どうして起こるのか述べよ。			
	学修のポイント5	地球温暖化の原因と対策を述べよ。			
	学修のポイント6	物質を構成している原子は、どのように形成されたか述べよ。			
期末試験		後日授業中に告知する。			
回数		授業内容			
第1回		宇宙誕生			
第2回		科目終了試験対策 学修のポイント1「現在の大気は、どのように形成されたか述べよ。」			
第3回		レポート対策Ⅰ「生命の誕生」			
第4回		レポート対策Ⅱ「生命の進化」			
第5回		レポート対策Ⅲ「動物・植物の分化と違い」			
第6回		レポート対策Ⅳ「動物と植物の進化」			
第7回		レポート対策Ⅴ「進化論」			
第8回		レポート作成(下書き)			
第9回		科目終了試験対策 学修のポイント2「環境問題が生態系に与える問題について述べよ。」			
第10回		科目終了試験対策 学修のポイント5「地球温暖化の原因と対策を述べよ。」			
第11回		科目終了試験対策 学修のポイント4「地震はどうして起こるのか述べよ。」			
第12回		科目終了試験対策 学修のポイント6「物質を構成している原子は、どのように形成されたか述べよ。」			
第13回		科目終了試験対策 学修のポイント3「太陽系における地球型惑星と木星型惑星の成因を述べよ。」			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み不可 授業内容の一問一答形式		
	授業内評価	20点	課題(レポート・学修のポイント) 期日厳守(提出期限に遅れた場合は、減点。)		
		20点	誠実で積極的な授業態度を重視		
備考		1 限目の授業ですが、レポートや学修のポイントの提出期限を守り、無遅刻・無欠席で頑張りぬいてください。			

2025年度前期

(講義)	科目名:ICT支援 I		講師:深谷高史
科目概要・目標	情報系科目を教えるためのコンピュータ・ネットワークに関する知識の包括的な理解を目指す。 その一環として、引き続きITパスポートおよびその他の情報系資格の取得を目指すためのさまざまな学習を行う。 とくに過去問演習を重点的に行い、試験合格のための実力を身につけていただく。		
教科書	よくわかるマスター 令和6-7年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集 FOM出版		
期末試験	後日通知する。		
回数	授業内容		
第1回	オリエンテーション 問題演習		
第2回	問題演習		
第3回	問題演習		
第4回	問題演習		
第5回	問題演習		
第6回	問題演習		
第7回	問題演習		
第8回	問題演習		
第9回	問題演習		
第10回	問題演習		
第11回	問題演習		
第12回	問題演習		
第13回	問題演習		
第14回	問題演習		
第15回	問題演習		
第16回	期末試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点	持ち込み不可
	授業内評価	30点	授業内課題、受講態度など
備考	授業中は学習に集中するため、スマートフォンをカバンの中に入れてください。		

(講義)		科目名:一般教養対策講座Ⅰ		講師:室山 俊浩・山田 哲史	
科目概要・目標	近い将来、就職試験に臨むことを前提にして、民間企業で出題される一般教養(常識)をはじめ、公務員試験や教員採用試験で出題される一般教養の試験への対策を意識して問題演習を行う。各問題を解析していく中で、確実な得点力を身につけるために必要な知識や解法について注目していきたい。なお、このような問題演習は最終学年になってから始めていてはとても試験には間に合わないことは明白である。2年生や3年生のうちに時間をかけてこうした問題を解き進め、学習を地道に積み上げていくことが大切である。				
教科書	指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。				
期末試験	持ち込みなし。内容は後日発表。				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション				
第2回	社会科学・人文科学①				
第3回	数的推理・判断推理①				
第4回	社会科学・人文科学②				
第5回	社会科学・人文科学③				
第6回	数的推理・判断推理②				
第7回	社会科学・人文科学④				
第8回	社会科学・人文科学⑤				
第9回	数的推理・判断推理③				
第10回	社会科学・人文科学⑥				
第11回	社会科学・人文科学⑦				
第12回	数的推理・判断推理④				
第13回	社会科学・人文科学⑧				
第14回	社会科学・人文科学⑨				
第15回	社会科学・人文科学⑩				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考	授業内容は変更になる場合があります。				

2025年度 前期

(講義)	科目名： 社会		講師： 山田 哲史	
科目概要・目標	小学校社会科の目標と内容について、小学校学習指導要領解説・社会編を基にして学修し、理解を深める。特に、今回の学習指導要領の改訂における小学校社会科の改訂のねらいと社会科の目標及び各学年の目標と指導内容の特色等について具体的に学修する。また、学び方や調べ方を身につける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習のあり方について学修する。			
教科書		文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』 東洋館出版。		
レポート	設題 1	小学校学習指導要領社会の目標・内容の具体化を図る視点・方法について、教科書を根拠にしながら具体的に述べよ。		
	<ポイント>	小学校社会科の目標・内容が具体化される場合は授業である。そこで、学習指導要領に示された各学年の目標・内容のうち、どれか一つを取り上げ、その内容について児童が興味・関心をもって主体的に取り組めるようにするための内容の具体化について述べる。特に内容の具体化を図る教材研究の仕方や、具体化した教材の作成・提示について着目したい。科目終了試験の各ポイントについて学修を進めた上で、レポート作成にとりかかると、より理解しやすい。		
提出課題	学修のポイント1	小学校社会科の目標の特色と学年の目標の構造及び系統について		
	学修のポイント2	小学校3年生の目標と内容の特色について		
	学修のポイント3	小学校4年生の目標と内容の特色について		
	学修のポイント4	小学校5年生の目標と内容の特色について		
	学修のポイント5	小学校6年生の目標と内容の特色について		
	学修のポイント6	指導計画の作成と内容の取扱いについて		
期末試験		(授業時に指示します。)		
授業計画	回数	授業内容		
	第 1 回	小学校社会科の目標の特色について		
	第 2 回	小学校社会科の学年の目標の構造及び系統について		
	第 3 回	指導計画の作成について		
	第 4 回	内容の取扱いについて		
	第 5 回	児童が興味・関心をもって主体的に取り組むための内容を考える		
	第 6 回	小学校6年生の目標と内容の特色について		
	第 7 回	6学年の国際社会と日本の学習について		
	第 8 回	小学校4年生の目標と内容の特色について		
	第 9 回	小学校3年生の目標と内容の特色について		
	第 10 回	3・4学年の地域学習について		
	第 11 回	小学校5年生の目標と内容の特色について		
	第 12 回	5学年の国土学習について		
	第 13 回	5学年の産業学習について		
	第 14 回	社会科の学習に期待されていること		
	第 15 回	期末試験		
	第 16 回	科目終了試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験	30点	持ち込み許可物件:授業時に配布の資料、指定の教科書、自筆のノート	
	授業内評価	20点	授業中態度:携帯、居眠り、私語厳禁	
		20点	課題提出状況	
備考		教育の効果を高めるためにも、授業には集中力を持続して積極的に取り組むようにしてください。授業中の携帯電話の使用、居眠り、飲食や私語は禁止します。これらのルールを守ることができない学生に対しては不合格とすることがありますので注意してください。		

(実技)		科目名:図画工作Ⅱ		講師: 山田 大空	
科目概要・目標	保育内容を展開する上で必要とされる、保育における造形活動の事例を例証・傍証して取り上げ、具体的な考察を行い、造形活動の題材系列や指導・援助に必要な個人の素養と、保育実践に必要な知識や技能を習得する。				
教科書		花村内哲二、他『保育内容 造形表現の指導』建帛社。			
提出課題	レポート設題1	幼児の生き生きとした造形活動を促すための「指導者の役割」と「指導過程」のポイントを、制作の実体験を踏まえ具体例を交えながら述べよ。			
	学修のポイント1	領域〈表現〉における造形活動の指導について			
	学修のポイント2	幼児の成長発達と造形表現について			
	学修のポイント3	指導計画の必要性和その意義について			
	学修のポイント4	望ましい指導のあり方について			
	学修のポイント5	指導の過程(指導の段階)について			
	学修のポイント6	造形表現と材料・用具について			
期末試験		実技試験(内容は後日発表)			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション・【座学】学修ポイント作成指導			
第2回		【共同作品】空き箱の街			
第3回		【紙の造形】こいのぼり			
第4回		【座学】レポート作成指導			
第5回		【紙の造形】幾何学立体			
第6回		【木工】虫を作ろう			
第7回		【木工】木っ端の塔			
第8回		【廃材工作】太鼓			
第9回		【廃材工作】コマ			
第10回		【廃材工作】木箱の街			
第11回		【粘土】色粘土遊び			
第12回		【粘土】粘土のヘビ			
第13回		【粘土】粘土のカツムリ			
第14回		【空間作品】室内の木			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	15点	実技試験		
	授業内評価	40点	作品課題		
		15点	レポート		
備考					

2025年度前期		(講義)		科目名:特別活動の指導法		講師: 木内 正範	
科目概要・目標	◇特別活動は、生徒の自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤に必要な望ましい人間関係を築き、いじめ問題などに対する予防策的な役割を果たすなど、生徒の成長に欠かせない教育活動である。そこで、特別活動の意義や目標を確認し、その背景となる理論を理解するとともに、実践的な指導の在り方を身につける。 ◇特別活動の方法原理や基本的な用語などの確認をしながら、体験的な学びを重視し、学級活動・ホームルーム活動を中心とした授業力等の理解と習得を図る。 到達目標 1. 特別活動の目標や内容、特質と教育課程における位置づけについて理解し、教育課程全体を意識して計画や指導を行うことができるようになる。 2. 特別活動における評価・改善活動の重要性を理解し、適切な評価・改善活動を実践できるようになる。 3. 特別活動の中核となる「学級活動・ホームルーム活動」について、その特質を理解した上で、指導案(展開案)を作成し、合意形成に向けた話し合い活動を指導できるようになる。 4. 特別活動における家庭、地域等との連携のあり方について理解し、指導に活かせるようになる。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり、特別支援教育にも深く携わってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。						
	教科書		高橋哲夫、井田延夫、他『特別活動研究 第三版』教育出版				
	提出課題	レポート設題1		【小学校の特別活動の変遷と学習指導要領の改訂の要点】 特別活動の歴史からみた特質について、小学校、中学校いずれかについてその変遷を概観するとともに、平成29年改訂学習指導要領の特別活動に関する「改訂の要点」を述べよ。			
学修のポイント1		特別活動の目標とその特質及び教育的意義(P.3～)					
学修のポイント2		教育課程の編成・実施と特別活動の充実(P.46～55)					
学修のポイント3		小学校学級活動における集団決定と自己決定(P.59～)					
学修のポイント4		中学校生徒会活動の目標・内容(P.64～)					
学修のポイント5		小学校クラブ活動の目標・内容と計画(P.69～)					
学修のポイント6		小学校学校行事の目標・内容と留意事項(P.71～)					
期末試験		設題は、事前に発表します。					
回数		授業内容					
第1回		レポート、学修ポイント等の対応 6章 8 中・高の部活動(P.203～) ディスカッション「新しいクラスのスタートにおける担任の役割？」					
第2回		レポート等の対応 1章「特別活動とは何か」 ディスカッション「運動会の1日、半日、計画」 1 内容構成と教育的意義 2 目標と基本的な性格(P.1～14)					
第3回		3 特別活動の歴史と特質 4 他の教育内容・方法との関連(P.14～44) ディスカッション「教職員の良好な人間関係づくり対策？」					
第4回		2章「教育課程の編成・実施と特別活動の授業時数」(P.46～55) 1 教育課程の意義と3要素 2 特別活動 3 授業時数 ディスカッション「子どものSOSチェック」					
第5回		3章「内容ごとの特質」(P.56～78) ディスカッション「学校内外の安全対策？」 1 学級活動 2 児童会 3 クラブ活動 4 学校行事					
第6回		4章「特別活動の評価」(P.79～86) 1 評価の意義 2 計画と方法 3 評価結果の活用 ディスカッション「学校行事(運動会、学芸会、文化祭、体育祭、キャンプ、宿泊訓練、修学旅行など)の意義とは」					
第7回		5章「特別活動の指導」(P.87～151) ディスカッション「清掃の時間の意義と分担」					
第8回		2 指導の実践(P.151～158) 1 指導原理の基本と形態や方法の工夫 2 指導上の留意事項 ディスカッション「部活動の意義と顧問の役割とは？」					
第9回		6章「特別活動を支え、充実、発展させるために」(P.159～167) 1 生徒指導の機能と生かし方 ディスカッション「クラブ活動の意義と顧問の役割」					
第10回		2 学級経営の機能と生かし方(P.168～176) ディスカッション「児童会・委員会活動の意義と顧問の役割とは？」					
第11回		3 特別活動を推進する指導体制(P.176～179) ディスカッション「学級活動の意義と担任の役割とは？」 4 体験的な活動のねらいとその展開(P.180～186)					
第12回		5 自己の生き方の指導をどう充実するか(P.186～194) ディスカッション「教員の勤務時間と私生活」					
第13回		6 特別活動を充実する研究・研修活動(P.195～197) ディスカッション「あなたの持ち味を生かした指導？」(面接)					
第14回		7 地域社会との連携(P.198～203) ディスカッション「漢字テストの結果、納得のいかないA君の対応？」					
第15回		期末試験: 教科書等持ち込み可 60分間					
第16回		科目終了試験: 教科書等持ち込み不可 60分間					
成績評価	出席率		30点	75%以上の出席を必須とする。			
	期末試験		20点	設題の意味を理解し、現場の実態を踏まえた私見			
	授業内評価	10点		ディスカッションでの発言内容(私見、具体性、建設的な意見等)			
		20点		授業態度(意欲、質問、意見等)			
		20点		提出物(学修ポイント・レポート)			
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。					

(講義)		科目名：児童生徒指導論		講師： 木内正範	
科目概要・目標	学校の本来的な中心任務は「教科指導」にあるが、その前提となる、あるいはそれと並行しての、生徒指導ないし生活指導の重要性も否定しえず、むしろ今日、学校においてはその意義はますます大きくなっている。ここでは、こうした事情を踏まえて、生徒指導における幾つかの場面に關して重点的に、理論と実践を概説する。主な内容は、生徒指導の本来的な目的及びガイダンスの機能の充実による生徒指導の意義、いじめや不登校・児童生徒、懲戒などの諸問題、更に教育相談、進路指導、学級経営のあり方を扱う。 本科目の目的は、学校における生徒指導の意義・理論及び方法を理解した上で、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることである。また、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を理解した上で、児童生徒の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むために必要な知識・技能や素養を身に付けることである。さらに、個別の課題を抱える児童生徒に対する指導のあり方について、事例をとおして理解を深め、現場で役立つ理論的・実践的なセンスや能力を養うことを目指す。				
	教科書		高橋哲夫他『生徒指導の研究 第三版』教育出版		
提出課題	レポート設題1	学校教育における生徒指導の意義や役割及びガイダンス機能の充実によるこれからの生徒指導の在り方について述べよ(P.8～、P.11～)			
	学修のポイント1	ガイダンスの機能の充実を図ったこれからの生徒指導(P.11～)			
	学修のポイント2	ガイダンスの機能の充実と進路指導(P.11～、P.170～)			
	学修のポイント3	生徒指導を実践するにあたり考慮すべき基本事項(P.25～)			
	学修のポイント4	いじめ・不登校・暴力行為等の指導及びLD児・ADHD児の理解(P.1～、P.53～)			
	学修のポイント5	学級集団に適応できない児童生徒の指導と特別活動の役割(P.202～)			
	学修のポイント6	生徒指導上の諸課題と「生きる力」の育成との関連(P.13)			
期末試験		設題は、事前に提示します。			
回数		授業内容			
第1回		第4章 1 学級・HR経営の基本課題(P.178～) ディスカッション「子どもとの信頼関係をどのようにして築くか」			
第2回		2 学級・HR経営の意義・ねらい・役割(P.183～) 3 学級・HR経営の方法・進め方(P.192～) ディスカッション「子ども同士の信頼関係をどのようにして築くか」			
第3回		4 学級経営の組織と計画(P.208～) 5学級経営の評価(P.216～) ディスカッション「登下校時の対応？」			
第4回		6 学級経営の配慮事項(P.218～) ディスカッション「クラスに不登校の子がいる。どのように対応しますか」			
第5回		第1章 1 直面する学校不適応及び問題行動(P.1～) 2 生徒指導の意義・ねらいと性格 ディスカッション「子どものSOSの把握？」			
第6回		3 生徒指導の歴史と理論(P.19～) 4 生徒指導と法制(P.23～) ディスカッション「事故防止策？」			
第7回		5 生徒指導の方法・進め方(P.25～) ディスカッション「宿題の意義？」			
第8回		6 学校経営と生徒指導(P.66～) 7 学級経営と生徒指導(P.70～) 8 部活動と生徒の成長(P.72～) ディスカッション「子ども一人一人の人権意識をどのようにして育てますか」			
第9回		第2章 1 教育相談の意義とねらい(P.75～) 2 教育相談の歴史と理論 3 教育相談を支えるカウンセリングの諸理論 ディスカッション「障がいのある子の理解をどのようにして進めますか」			
第10回		4 教育相談の進め方(P.86～) 5 教育相談の技法とその実際例(P.90～) ディスカッション「男女平等の意識をどのようにして育てますか」			
第11回		6 教育相談の組織と計画(P.115～) 7 教育相談を進める上での配慮事項 8 教育相談の働きの授業への生かし方 ディスカッション「クラス全員に公平に対応する上での留意点は？」			
第12回		第3章 1 進路指導の意義と性格(P.127～) 2 進路指導の歴史と理論(P.134～) ディスカッション「時々、遅刻してくるA君への対応は？」			
第13回		3 進路指導の組織と計画(P.148～) 4 進路指導の方法と評価(P.159～) ディスカッション「保護者との信頼関係をどのように築くか」			
第14回		5 進路指導の課題と展望(P.169～) ディスカッション「よりよい職場にするための提案をしてください」			
第15回		期末試験：教科書等持ち込み不可 60分			
第16回		科目終了試験：教科書等持ち込み不可 60分			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	設題の意味を理解し、教育現場の実態を踏まえた私見を述べる。		
	授業内評価	10点	ディスカッションでの発言内容(具体性、現実性、建設的な意見)		
		20点	授業態度(学習意欲、質問、意見)		
		20点	提出物(学修ポイント)		
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。			

(講義)		科目名:教育心理学		講師: 内山 世璃奈	
科目概要・目標	教育心理学とは、子どもを教育していく上で必要となる知識を身につけ、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から探究する学問といえる。そのため、発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の4つの領域について基礎知識が必要となってくる。本科目では、以上のような基礎的知識修得はもちろんのこと、事例にのっとり、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を学ぶ。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用を考える。				
教科書		櫻井茂男『たのしく学べる最新教育心理学 教職に関わるすべての人に』図書文化			
提出課題	レポート設題1	子ども一人ひとりの特性に応じた教育を行ううえで考慮すべきことは何かについて、個人の特性と教授法の相互作用という視点を含めて述べよ。			
	〈ポイント〉	発達の状況には遺伝と環境があることをふまえた上で、知能やパーソナリティ、認知特性、現在の発達状況などの個人の特性に対して、子どもの発達を最大限に促すような教師の教授法とはどのようなものかを論じる。			
	学修のポイント1	認知の発達について			
	学修のポイント2	学修に関する理論と教育現場での活用について			
	学修のポイント3	パーソナリティの発達と社会化・個性化について			
	学修のポイント4	教師・学級について			
	学修のポイント5	教育における評価について			
	学修のポイント6	心身障害の理解と支援のあり方について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション/学修のポイント3 パーソナリティの発達について			
第2回		P3 知能や個人差について			
第3回		P3 パーソナリティの発達・個人化・社会化 レポート作成及び指導			
第4回		学修のポイント4 教師・学級と子どもの関係について			
第5回		P4 レポート作成及び指導			
第6回		学修のポイント2 学習に関する理論と教育現場での活用について			
第7回		P2 レポート作成及び指導			
第8回		R 発達について			
第9回		R 知能や認知といった個人特性について			
第10回		R 教授法について			
第11回		レポート作成及び指導			
第12回		学修のポイント5 教育における評価について			
第13回		学修のポイント6 心身の障害の理解			
第14回		学修のポイント6 支援について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	・レポート提出期限を守れた場合は、加点します。 ・備考に書かれているものを守れているか。		
備考		授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度注意しても直らない場合は、受講は認めず退出していただきます。			

教育学科

教育学 ICT コース

3 年生

(講義)		科目名:教養演習Ⅰ(進路ガイダンス含む)		講師:山田哲史(HR:内山世璃奈)	
科目概要・目標	社会福祉士、精神保健福祉士、社会福祉主事任用資格、児童指導員任用資格、認定心理士、保育士資格、幼稚園教諭免許状、小学校教諭免許状など、大学卒業時に本科目の受講者はそれぞれの学科やコース応じた各種の資格を取得する。ここでは、広くそれぞれの資格の基本的な位置づけや活躍の機会について紹介するとともに、適宜、就職試験の受験を意識した試験問題の演習も行う。このようにして、近い将来、各自がどんなところで働くのかということについてのイメージを具体的に描くことができるようにするとともに、就職試験の際に出題される可能性のある問題を想定して解析し、得点力を高める一助としたい。				
	教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。		
	期末試験		内容は後日発表。		
	回数		授業内容		
	第1回		オリエンテーション		
	第2回		インターンシップ(1day 仕事体験)について説明		
	第3回		資格・就活(採用試験)関連①		
	第4回		マイナビ就活講座		
	第5回		資格・就活(採用試験)関連①		
	第6回		資格・就活(採用試験)関連②		
	第7回		資格・就活(採用試験)関連③		
	第8回		卒業生(精神保健福祉士)による体験談		
	第9回		児童養護施設などについての紹介		
	第10回		資格・就活(採用試験)関連⑤		
	第11回		資格・就活(採用試験)関連⑥		
	第12回		資格・就活(採用試験)関連⑦		
第13回		資格・就活(採用試験)関連⑧			
第14回		インターンシップに関する資料作成			
第15回		インターンシップに関する発表会①			
第16回		インターンシップに関する発表会②			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

2025年度 前期

2025年度 前期

(実技)		科目名:音楽実技ⅡB		講師: 花井 淑	
科目概要・目標	「音楽」で習得した音楽理論(楽典、和声法)や楽器演奏等の基礎技能をふまえ、保育や教育の場において音楽を展開する上で必要とされる 保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。具体的には、歌唱、ピアノ伴奏、弾き歌い(ピアノ伴奏をしながら歌う)等の技術を身につけるとともに、子どもを対象とした音楽活動とその指導について実践的に学ぶ。				
	教科書	「バイエルピアノ教則本」、「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」、「こどものうた大百科」、配布楽譜、等			
期末試験	実技試験				
回数	授業内容				
第1回	ガイダンス(楽器の扱い方、教室でのマナー、授業の進め方、進度調べ、等)。 ピアノ実技。				
第2回					
第3回	バイエル 70～106 の未終了曲 弾き歌い①				
第4回					
第5回	〃 〃				
第6回					
第7回	〃 〃				
第8回					
第9回	〔中間試験: バイエル 70～106 から1曲 弾き歌い①〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲 自由選択。				
第10回					
第11回	バイエル 70～106 の未終了曲 弾き歌い②				
第12回					
第13回	〃 〃				
第14回					
第15回	〃 〃				
第16回					
第17回					
第18回	〔 中間試験: バイエル 70～106 から1曲 弾き歌い②〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲 自由選択。				
第19回					
第20回	バイエル 70～106 の未終了曲 弾き歌い③				
第21回					
第22回					
第23回	〃 〃				
第24回					
第25回	バイエル 70～106 の未終了曲 弾き歌い④				
第26回					
第27回	〃 〃				
第28回					
第29回	まとめ・発表				
第30回					
第31回	〔期末試験: バイエル 70～106 から1曲、弾き歌い③④〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲				
第32回					
単位取得にあたり	上記のバイエル番号は、最低ラインで、終了した学生はさらに上を目指すように。				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。出席不足の場合は再履修とする。		
	期末試験	10点	課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は 70%とする。		
	授業内評価	20点	中間テスト: 10点×2回 課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は 70%とする。		
		16点	バイエル: 4点×4曲		
		20点	弾き歌い: 5点×4曲 ただし正伴奏で弾けること(和音伴奏の場合は5曲)		
		4点	発表: 未発表のもの、ただし、試験で弾いたものは可。		
		減点	忘れ物: 減点とする(1回につき 1点減点)		
備考	弾き歌いは、教科書、または他楽譜より4曲(不合格のもの)以上を選択				

2025年度 前期

(講義)		科目名:道徳の指導法		講師：山田哲史	
科目概要・目標	道徳は個人の内面の形成に直接的に関わるために、どのような道徳教育をどのようなかたちで学校教育の中で行うかについては、多くの議論がなされてきており、実際にめまぐるしい歴史の変遷をたどってきた。特に新学習指導要領では特別の教科「道徳」となり、道徳教育に対する理解はこれまで以上に重要性が高まってきている。このような道徳教育の理解に向けて、道徳教育の改訂の経緯、道徳教育の基本的なあり方、目標と内容、指導計画、道徳の時間の指導、全教育活動における指導、家庭・地域社会との連携、道徳教育における児童理解と評価の意義について学修する。そして道徳教育の授業理論や発達段階に応じた授業実践について学修し、道徳の学習指導案を作成できる能力を養う。				
教科書		柳沼良太『道徳の理論と指導法「考え議論する道徳」でよりよく生きる力を育む』図書文化、2017年			
レポート	設題 1	道徳の時間において、主題をどのように設定し、どのような授業を行っていくかという指導の構想			
	設題 2	*****			
提出課題	学修のポイント1	道徳教育における「特別の教科 道徳」の果たすべき役割について			
	学修のポイント2	道徳性の発達理論とそれに基づく道徳教育について			
	学修のポイント3	「道徳の時間」が特設されることになった経緯について			
	学修のポイント4	道徳教育の計画について			
	学修のポイント5	道徳教材の活用と道徳科における学習法について			
	学修のポイント6	教師に求められる道徳的指導力と道徳の評価について			
期末試験		(設題は授業時に発表します)			
授業計画	回数	授業内容			
	第1回	学習指導要領における「特別の教科 道徳」の位置づけについて			
	第2回	「特別の教科 道徳」の果たすべき役割について			
	第3回	道徳教育の計画について			
	第4回	道徳教材の活用と道徳科における学習法について			
	第5回	道徳教育のための指導の構想について(①指導案)			
	第6回	道徳教育のための指導の構想について(②留意点)			
	第7回	道徳教育のための指導の構想について(③教材の内容とその評価)			
	第8回	道徳性の発達理論の特質について			
	第9回	道徳性の発達理論とそれに基づく道徳教育について			
	第10回	道徳性の発達理論とそれに基づく道徳教育について			
	第11回	教師に求められる道徳的指導力と道徳の評価について			
	第12回	修身科の復活をめぐる論議と道徳教育について			
	第13回	道徳教育の全面主義について			
	第14回	「道徳の時間」が特設されることになった経緯について			
	第15回	期末試験実施			
第16回	科目終了試験実施				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	設題の趣旨に沿って独自性のある記述を心がけること。		
	授業内評価	10点	授業態度		
		20点	課題提出状況		
備考		授業には集中力を持続しながら積極的に参加してください。私語、居眠りは厳禁。携帯電話の電源は切っておくこと。授業態度が悪く、指導後も改善が認められないと判断された場合には、学習の状況の如何にかかわらず不合格とします。			

(講義)		科目名:教師論		講師: 奥村 一成	
科目概要・目標	変化の激しい今日の社会において、学校教育においても様々な課題が生じている。この課題を解決するために、学校教育の主たる担い手である教員の役割が今まで以上に重要になっている。本科目では、教職とは何か、これからの教員に求められる資質は何か、教員の仕事と役割はどのようなものか、教員の権利や義務(服務・研修・身分保障などを含む)はどのように規定されているのかなど、教職を志す学生があらかじめ知っておく必要のある事項について考察する。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		津田徹、広岡義之『教職論』ミネルヴァ書房			
提出課題	レポート設題1	これからの教員に求められる資質能力について、具体例を挙げて述べよ。			
	学修のポイント1	教員は、聖職者か、労働者か、専門職か。			
	学修のポイント2	教員の役割と職務内容について			
	学修のポイント3	教員の服務と身分保障について			
	学修のポイント4	教員の研修について			
	学修のポイント5	教員の適性について			
	学修のポイント6	教職をめぐる諸問題について			
期末試験		(授業中に指示します。)			
回数		授業内容			
第1回		教師の歴史と教職観について 学修のポイント1 教員は、聖職者か、労働者か、専門職か。			
第2回		教職制度と教員に求められる資質について①			
第3回		教職制度と教員に求められる資質について②			
第4回		学校を取り巻く環境と教職の課題について①			
第5回		学校を取り巻く環境と教職の課題について② 学修のポイント6 教職をめぐる諸問題について			
第6回		レポート下書き作成			
第7回		教員の種類と職階について 学修のポイント2 教員の役割と職務内容について			
第8回		学修のポイント3 教員の服務と身分保障について			
第9回		学修のポイント4 教員の研修について			
第10回		学修のポイント5 教員の適性について			
第11回		保護者・地域・関係機関と教員について			
第12回		教育相談・進路指導と教員について			
第13回		教員の法規と学習指導要領について			
第14回		教科指導と教科外指導について 期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	授業中に指示 持ち込み不可		
	授業内評価	20点	課題(レポート・学修のポイント) 期日厳守(提出期限に遅れた場合は減点)		
		20点	誠実で積極的な授業態度重視		
備考		1限目の授業ですが、無遅刻・無欠席で頑張ってください。私語・居眠り厳禁。携帯電話の電源は切っておくこと。授業態度が悪く、改善が認められないときは、不合格とします。			

(講義)		科目名:情報セキュリティ		講師: 室山 俊浩	
科目概要・目標	本科目では、コンピュータシステムおよびデータのセキュリティとプライバシー保護について学ぶ。具体的には、システム保護、システムの信頼性、システムの欠陥への対処、データ保護と暗号、ハッキングとソーシャルエンジニアリングについて、演習を通じて、かなり高度な内容にまで踏み込み、情報セキュリティに関する深い理解を図る。				
	教科書		独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) 『情報セキュリティ読本 第4版 ―IT時代の危機管理入門―』 実教出版		
提出課題	レポート設題1	情報資産への脅威について述べよ。			
	レポート設題2				
	学修のポイント1	情報セキュリティマネジメントシステムの設計について			
	学修のポイント2	暗号化と電子認証について			
	学修のポイント3	電子情報セキュリティに関する基準・法制度について			
	学修のポイント4	脅威とリスクについて(危機管理システム)			
	学修のポイント5	ウイルスについて			
	学修のポイント6	ファイアーウォールについて			
期末試験					
回数		授業内容			
第1回		情報セキュリティとは			
第2回		インターネットとセキュリティ(1)			
第3回		インターネットとセキュリティ(2)			
第4回		インターネットとセキュリティ(3)			
第5回		攻撃手法			
第6回		暗号化と電子認証(1)			
第7回		暗号化と電子認証(2)			
第8回		脅威とリスク(1)			
第9回		脅威とリスク(2)			
第10回		マルウェア			
第11回		情報セキュリティポリシー			
第12回		従業員とセキュリティ			
第13回		情報セキュリティに関する基準			
第14回		法制度			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点			
備考					

(講義)		科目名:教職教養講座Ⅱ(社会)		講師:山田哲史
科目概要・目標	近い将来、就職試験に臨むことを前提にして、民間企業で出題される一般教養(常識)をはじめ、公務員試験や教員採用試験で出題される一般教養の試験への対策を意識して問題演習を行う。各問題を解析していく中で、確実な得点力を身につけるために必要な知識や解法について注目していきたい。なお、このような問題演習は最終学年になってから始めてはとて試験には間に合わないことは明白である。したがって時間をかけてこうした問題を解き進め、学習を地道に積み上げていくことが大切である。			
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。		
期末試験		持ち込みなし。内容は後日発表。		
回数		授業内容		
第1回		オリエンテーション		
第2回		試験対策問題演習Ⅰ		
第3回		試験対策問題演習Ⅱ		
第4回		試験対策問題演習Ⅲ		
第5回		試験対策問題演習Ⅳ		
第6回		試験対策問題演習Ⅴ		
第7回		試験対策問題演習Ⅵ		
第8回		試験対策問題演習Ⅶ		
第9回		試験対策問題演習Ⅷ		
第10回		試験対策問題演習Ⅸ		
第11回		試験対策問題演習Ⅹ		
第12回		試験対策問題演習Ⅺ		
第13回		試験対策問題演習Ⅻ		
第14回		試験対策問題演習(総復習A)		
第15回		試験対策問題演習(総復習B)		
第16回		期末試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験	40点	期末テスト	
	授業内評価	30点	授業態度	
備考		授業内容は変更になる場合があります。		

(講義)		科目名:教養基礎講座		講師:室山俊浩・山田哲史	
科目概要・目標	近い将来、教員採用試験で出題される一般教養の試験対策を意識して問題演習を行う。各問題を解析していく中で、確実な得点力を身につけるために必要な知識や解法について注目していきたい。なお、このような問題演習は最終学年になってから始めてはとて試験には間に合わないことは明白である。したがって時間をかけてこうした問題を解き進め、学習を地道に積み上げていきたい。				
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		持ち込みなし。内容は後日発表。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		社会科学・人文科学①			
第3回		自然科学①			
第4回		社会科学・人文科学②			
第5回		自然科学②			
第6回		社会科学・人文科学③			
第7回		自然科学③			
第8回		社会科学・人文科学④			
第9回		自然科学④			
第10回		社会科学・人文科学⑤			
第11回		自然科学⑤			
第12回		社会科学・人文科学⑥			
第13回		自然科学⑥			
第14回		社会科学・人文科学⑦			
第15回		自然科学⑦			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(実技)		科目名:情報処理基礎演習Ⅲ		講師:高橋直子	
科目概要・目標		パワーポイントの使い方を学習する。 特に、図を用いて表現することを学習する。			
教科書		なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)			
期末試験		実技試験(パワーポイントで1つの資料を作成し保存する。)			
回数		授業内容			
第1回		パワーポイントの基本			
第2回		いろいろなスライドの作成			
第3回		効果(画面切り替え、アニメーションなど)の利用			
第4回		リンク機能の利用			
第5回		グラフのスライドの作成			
第6回		SmartArt機能を使ったスライドの作成			
第7回		図解のパターンを理解するスライドの作成			
第8回		スライドマスターの利用			
第9回		図解の復習			
第10回		複雑な図解のスライドの作成			
第11回		自由にアレンジしたスライドの作成			
第12回		話の流れを考える			
第13回		復習			
第14回		復習			
第15回		復習(期末試験対策)			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度		
備考		飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止			

(講義)		科目名:家庭		講師: 浅井 恭子	
科目概要・目標		小学校における「家庭科」は、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活に焦点を当て、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識を身に付け、家庭の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てることを目標としている。本科目では、小学校の「家庭科」の授業を展開する上で必要となる、学習指導の要点や留意点、題材構成のあり方などについて学修する。			
教科書		文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編』東洋館出版社			
提出課題	レポート設題 1	家庭科における題材・教材選びの留意点と具体的な学習展開について述べよ。			
	学修のポイント1	A 「家族・家庭生活」に関する内容と指導上の留意点について			
	学修のポイント2	B 「衣食住の生活」(1)食事の役割(2)調理の基礎(3)栄養を考えた食事の内容と指導上の留意点について			
	学修のポイント3	B 「衣食住の生活」(4)衣服の着用と手入れ(5)生活を豊かにするための布を用いた製作の内容と指導上の留意点について			
	学修のポイント4	C 「消費生活・環境」の内容と指導上の留意点について			
	学修のポイント5	実習指導を行う際に配慮すべき点について			
	学修のポイント6	わが国の伝統的食文化である「米飯及びみそ汁の調理」の指導上の留意点について			
期末試験		家庭科で「食育」に取り組む際のポイントについて考察しなさい。			
回数		授業内容			
第1回		シラバスの説明及び授業に関する諸注意、教材確認、第1章読み合わせ			
第2回		家族・家庭生活に関する内容と指導上の留意点について			
第3回		同上(教員採用試験過去問含む)			
第4回		「衣食住の生活」(1)(2)(3)の内容と指導上の留意点について			
第5回		同上(教員採用試験過去問含む)			
第6回		家庭科における題材・教材選びの留意点と具体的な学習展開について			
第7回		同上(目標及び学習内容)			
第8回		同上(学習内容A～Cの理解し設題の内容を確認する)			
第9回		同上(設題のポイントを確認する)			
第10回		実習指導を行う際に配慮すべき点について1			
第11回		同上(教員採用試験過去問含む)2			
第12回		学習のポイント2.4.6について学習する。(授業内容のまとめ)			
第13回		実技指導(被服分野)基礎縫いとミシンについて			
第14回		実技指導(食物分野)鍋での炊飯・だしの取り方			
第15回		期末試験(持ち込み不可)			
第16回		科目終了試験(持ち込み不可)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み不可(1000字以上)		
	授業内評価	10点	提出物(設題・学習のポイントなどの提出期限重視)		
		10点	実習態度(実習作品)		
20点		授業態度(授業に取り組む姿勢)			
備考		①携帯電話等の使用禁止 ②私語は慎む ③居眠り禁止 ④飲食は禁止 ⑤配布資料は大切にしましょう。			

(講義)		科目名:体育科指導法		講師:山口榮三	
科目概要・目標		体育を指導する上での基本的な知識・技能を身につけ、各領域の教材づくりと指導のポイントについて学修する。スクーリングは実技中心の授業であり、体育の模擬授業形式で授業を進める。部分的には講義やディスカッション形式で授業を行う。			
教科書		高橋建夫『新版 体育科教育学入門』大修館書店 小谷川元一『教師と親の「共育」で防ぐ いじめ・学級崩			
提出課題	レポート設題1	体育学修のポイントを整理し、具体的事例をもとにより良い体育授業について述べよ。			
		(ポイント) 次の点を踏まえて述べること。 ①「わかる」「できる」「かかわる」が両立する体育授業とは何か把握する。 ②体育の特性を整理し、人間関係構築のために体育科の果たす役割を理解する。 ③子どもが伸びる具体的な教材を示し、授業のポイントを整理する。			
	学修のポイント1	体育とは子どもたちにどのような影響を与える教科なのか			
	学修のポイント2	人間関係を構築する体育学習とはどのようなものか			
	学修のポイント3	体育の教材づくりについて、具体的な事例をもとに述べよ。			
	学修のポイント4	体育科学習指導案作成上の留意点について			
	学修のポイント5	いじめ・学級崩壊を防ぐために体育学習が果たす役割について			
	学修のポイント6	体育の授業場面において教師が特に配慮すべきことについて			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		体育科の特性及び目標整理し、体育科とはどのような教科なのかについて理解を深める。			
第2回		体育の学習主体の子どもの理解			
第3回		体育の領域と単元構成について教科書をもとに整理する。			
第4回		典型教材を作成する。(資料等を参考にしながら、児童に学習させたい教材を考案する。			
第5回		人間関係を構築する体育学習について教科書等をもとに整理する。(希薄な人間関係の社会背景についても考察する)			
第6回		いじめ・学級崩壊を防ぐために体育学習が果たす役割について、参考書の具体的事例などをもとに整理する。			
第7回		体育学習において教師が特に配慮すべきことについて、自身の経験をもとにまとめる。(安全面の配慮は必ずおさえる)			
第8回		体育科学習指導案の作成のポイントについて参考書の具体事例などをもとに整理する。			
第9回		体育学習指導案作成「体づくり運動系教材」			
第10回		体育学習指導案作成「器械運動系教材」			
第11回		体育学習指導案作成「ボール運動系教材」			
第12回		体育学習指導案作成「保健学習系教材」			
第13回		体育学習指導案作成「陸上運動系教材」			
第14回		体育学習指導案作成(「水泳系教材」「表現運動系教材」から一つを選んで)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	20点	レポート:提出期限までに作成できたか、自分の言葉でまとめられているかで判断します。		
		10点	実技:すすんで授業に参加しているか、体を動かしての行動等で判断します。		
		10点	授業態度:本学ルール、マナーにそって、意欲的に授業を受けていたかどうかで判断します。		
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。遅刻は15分まで。その後は欠席となります。遅刻3回で欠席1回。			

(実技)	科目名:レクリエーションワーク	講師:山口榮三
科目概要・目標	社会福祉の援助技術に関わる課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ(幼児・児童・青年・老年・障害者)に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術(個別・グループ・環境)を、実践を通して身につける。	
教科書	①レクリエーション支援の理論と方法 楽しさをとoshした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション・インストラクターテキスト ②各種レク財冊子 ③県内実施の事業 *②③の資料は山口榮三が用意します。	
期末試験	後日指示	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション・レクリエーション支援とは/現場実習について 実技体験	
第2回	レクリエーション支援の展開方法(1) 個別及び集団レクリエーション支援方法とその実践	
第3回	アイスブレーキングゲーム支援の実際(1)	
第4回	アイスブレーキングゲーム支援の実際(2)	
第5回	レクリエーション支援実習1	
第6回	レクリエーション支援実習2	
第7回	レクリエーション支援実習3	
第8回	レクリエーション支援実習4	
第9回	レクリエーション支援実習5	
第10回	レクリエーション支援実習6	
第11回	レクリエーション支援実習7	
第12回	レクリエーション支援実習8	
第13回	レクリエーション支援実習9	
第14回	レクリエーション支援実習10	
第15回	まとめ	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点 持ち込み:可 論述式
	授業内評価	30点 支援計画案の提出及びその内容で評価します。
		10点 本学園におけるルール、マナーにそって、授業を受けていたかどうかで判断します。
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。	

(講義)		科目名:専門実技Ⅰ(教科実技)		講師:松村久美子	
科目概要・目標		教育時事や現代的な教育課題を捉え、既存の教育方法から学び、教育法規や学習要領などの抑えつつ、模倣に陥らない確かで創造的な実践力の育成を目指す。単元や本時の目標・課題づくり、発問・展開・教材づくり・板書計画、目標達成のために必要な用具や教材などを練り、模擬授業をし、省察・授業改善を重ね、教育実習や教職に必要な資質能力を実践を通して向上させていく。			
教科書		配布プリント			
期末試験		自身の授業力・実践力への気づきを具体的に書き、教師の資質能力を培うためにこれからすべきことを具体的に述べよ。			
回数		授業内容			
第1回		算数科 事前研究会①		教育時事①	
第2回		事前研究会②		教育時事②	
第3回		模擬授業①			
第4回		模擬授業②			
第5回		総合的な学習(探究) 課題設定		教職教養①	
第6回		情報収集		教職教養②	
第7回		整理・分析			
第8回		まとめ 表現			
第9回		模擬授業①			
第10回		模擬授業②			
第11回		国語科 物語文 課題づくり DVD		教育実習①	
第12回		音読 初発の感想		教育実習②	
第13回		教材文の読み込み 書き込み		教育実習③	
第14回		主発問づくり		教育実習④	
第15回		国語科・学年の目標 学習内容 授業構想 教育実習⑤			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	15点	授業への構え 授業態度		
		10点	模擬授業 指導計画		
		15点	省察ノート 授業改善		
備考		実践力を実技を通して高めつつ、計画ありきではなく受講生の実態に応じます。			

(講義)		科目名:特別ニーズ教育論		講師: 花木元司	
科目概要・目標		障害の有無にかかわらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1)インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2)わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3)特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、についてそれぞれ講述する。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、特別支援学校で障害児の教育にあたってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。			
教科書		【教科書】玉村公二彦、他『新版 キーワードブック 特別支援教育』クリエイツかもがわ。			
提出課題	レポート設題1	現代の学校は、発達障害・母国語・貧困などの問題への様々な教育的ニーズに対応しなければならない。現在の学校教育が抱える問題について、インクルーシブ教育のつ視点から整理し、その解決についてあなたの考える方策を述べよ。			
	学修のポイント1	インクルーシブ教育の理念について			
	学修のポイント2	特別支援教育とインクルーシブ教育について			
	学修のポイント3	障害の理解について			
	学修のポイント4	特別支援学校の学習指導要領と教育課程について			
	学修のポイント5	障害児の教育課程について			
	学修のポイント6	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりについて			
期末試験		講義の中で発表する。			
回数		授業内容			
第1回		インクルーシブ教育とは ポイント①			
第2回		インクルーシブ教育の理念について ポイント①			
第3回		我が国の障害児教育 特別支援教育の歴史 ポイント②			
第4回		現在の特別支援教育の現状と課題 ポイント②			
第5回		特別支援教育とインクルーシブ教育について ポイント②			
第6回		特別支援学校の学習指導要領と教育課程について ポイント④			
第7回		特別支援学校の学習指導要領と教育課程について ポイント④			
第8回		障害の理解について 視覚障害・聴覚障害 ポイント③			
第9回		障害の理解について 知的障害・肢体不自由・病弱 ポイント③			
第10回		障害の理解について 重度重複障害児 ポイント③			
第11回		障害の理解について 発達障害:学習障害(読み書き障害)・ADHD・自閉症(ASD) ポイント③			
第12回		障害児の教育課程について 作業学習 ポイント⑤			
第13回		障害児の教育課程について 自立活動 ポイント⑤			
第14回		特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり ポイント⑥			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	的確に課題の意図を捉えているか		
	授業内評価	20点	積極的に授業に臨んだか		
		20点	提出物(期限内に提出できたか)		
備考					

(講義)		科目名:コンピュータサイエンスⅠ		講師: 保田 涼佑	
科目概要・目標	コンピュータを効率的に使うためには、その操作方法に習熟するだけでなく、コンピュータの基本的な仕組みや動作について学ぶことが有効である。本科目では、コンピュータの基本構成や内部データ表現、ソフトウェアに関する基本概念を学び、コンピュータ内部では実際にどのような処理が行われているかを理解する。				
教科書		はじめて学ぶコンピュータ概論			
提出課題	レポート設題1	身近な日常行動の中から、何かしらの問題解決を実現する行動を選び、その手順を箇条書きにせよ。 (ポイント)アルゴリズムの条件を満たし、かつ処理の基本3構造を含んでいること。			
	学修のポイント1	コンピュータの5つの基本構成要素を挙げ、各々の役割を説明せよ。			
	学修のポイント2	浮動小数点表現で、誤差の生ずる原因を2つ挙げ、符号1ビット、指数部7ビット、仮数部24ビットにおいて、各々の原因に該当する小数の2進数表現と発生する誤差を示せ。			
	学修のポイント3	ド・モルガンの定理が成り立つことを、真理値表を使って確かめよ。			
	学修のポイント4	OSとは何か、また、その機能と役割を記述せよ。			
	学修のポイント5	データ型とデータ構造には、どのようなものがあるか挙げ、それぞれの具体例を身近なものから選び、その値を書け。			
	学修のポイント6	コンピュータアルゴリズム化できない(定式化できない)問題の例を身近な題材から探し、アルゴリズム化できないのかを述べよ。			
期末試験					
回数		授業内容			
第1回		コンピュータの概要			
第2回		数の表現			
第3回		論理演算と論理回路			
第4回		コンピュータの種類			
第5回		コンピュータの構成要素			
第6回		システム構成			
第7回		ソフトウェア			
第8回		オペレーティングシステム			
第9回		応用ソフトウェア			
第10回		ユーザインタフェース			
第11回		マルチメディア			
第12回		データベース			
第13回		プログラム言語			
第14回		まとめ・復習・試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	持ち込み可。論述式。		
	授業内評価	30点	授業態度、提出物などによって評価する。		
備考		授業中に居眠り、私語、許可のない携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価する。			

(講義)		科目名:社会情報学		講師:伊東 秀幸	
科目概要・目標	情報化によって仕事や生活の様式が大きく変化している現代において、メディアやIT (Information Technology) に関する理解は不可欠なものである。本科目では、メディアや文化、コミュニケーションなどの観点から、社会におけるメディアや情報のあり方、そして、それによる社会的影響について考える。				
教科書		西垣通・伊藤守『よくわかる社会情報学』ミネルヴァ書房			
提出課題	レポート設題1	「情報技術の変化」、「社会への影響」、「ニュースにおけるメディア」の3つをキーワードとして、日常生活におけるメディアとコミュニケーションについて論じよ。このとき、教科書で述べられている意見や研究などを適宜参照すること。 ＜ポイント＞ 教科書を読むだけでなく、自分自身の経験を例に挙げて論述するとよい。また、書籍やインターネットを活用して関連事項を調べ、理解を深めること。			
	学修のポイント1	インターネットが普及するようになった経緯について			
	学修のポイント2	インターネットの普及がもたらした社会的影響について			
	学修のポイント3	テレビや電話といった日常生活に関わりが深いメディアについて			
	学修のポイント4	テキスト(文字)によるコミュニケーションについて			
	学修のポイント5	Computer Mediated Communicationについて			
	学修のポイント6	テレビのニュースによる情報受容			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション／情報社会①(メリット)			
第2回		情報社会②(デメリット)			
第3回		情報メディア①(オールドメディア)			
第4回		情報メディア②(ニューメディア)			
第5回		情報メディア③(メディアリテラシー)			
第6回		情報モラル①(個人情報)			
第7回		情報モラル②(産業財産権)			
第8回		情報モラル③(著作権)			
第9回		情報コミュニケーション①(テキスト)			
第10回		情報コミュニケーション②(マルチメディア)			
第11回		情報コミュニケーション③(コミュニケーションツール)			
第12回		情報システム①(クラウドコンピューティング)			
第13回		情報システム②(アクセシビリティ)			
第14回		情報システム③(デジタルデバイド)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席が必須である。		
	期末試験	40点	得点が30%に満たない場合は、不合格と判定する。		
	授業内評価	30点	授業態度(コミュニケーションの量や質)、課題(内容の量や質)等から判断する。		
備考		居眠りや私語、不要な機器操作等を確認した場合は、授業内評価を減点する。			

(講義)		科目名:教養基礎演習Ⅱ		講師: 室山俊浩	
科目概要・目標	本科目では、広く基礎科目を学習することにより、大学卒業程度の深い教養を身につけ、公務員および一般の就職対策や大学院入試などに対応できる、一般教養の学力をつけることをめざす。教養試験の類型は、多くの地方自治体・施設等における採用試験に取り入れられているため、福祉・保育・教育関連の資格職、公務員や地方上級公務員試験対策はもとより、一般の就職採用試験対策にも効果的である。また幅広い教養を身につけられることから、就職以外の進路を考えている学生にとっても有効である。				
教科書		東京アカデミー『セサミノート②一般教養』			
提出課題	設題 1	環境問題と環境保護のための取り組みについて述べよ。			
	設題 2				
	学修のポイント1	次の出来事を年代順に並べ替え、どのような出来事か簡単に説明せよ。 (a.南北ベトナムの統一、b.ベルリンの壁の崩壊、c.湾岸戦争、d.昭和天皇の崩御、e.沖縄返還)			
	学修のポイント2	東京が4月3日の午後8時のとき、サンフランシスコ(西経120度)は何日の何時か。理由も説明せよ。			
	学修のポイント3	AB型とAB型の両親から産まれる子どものもつ血液型の確率を血液型ごとに求めなさい。理由も説明する事。			
	学修のポイント4	日本の四季の天気の特徴を説明せよ。			
	学修のポイント5	高さ19.6mからボールを水平に初速度20m/sで投げた時、ボールが地面に着くのは何秒後か。また、ボールは水平方向に何m進むか。それぞれ説明せよ。ただし、重力加速度を9.8m/s ² とする。			
	学修のポイント6	「世界遺産」とは何か説明せよ。また、世界遺産リストに登録されている日本の文化遺産と自然遺産の主なものを1点ずつ取り上げて紹介せよ。さらに、「無形文化遺産」についても説明し、日本の例を1点紹介せよ。			
期末試験		後日発表する			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション / 環境問題について			
第2回		環境保護のための取り組みについて			
第3回		環境問題にどのように取り組むべきか			
第4回		学修のポイント1			
第5回		学修のポイント2			
第6回		学修のポイント3			
第7回		学修のポイント4			
第8回		学修のポイント5			
第9回		学修のポイント6			
第10回		問題演習			
第11回		問題演習			
第12回		問題演習			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	持ち込み		
	授業内評価	30点	提出物・授業内課題など		
備考		提出物の締切は厳守すること。期限を守れなかった場合は謝罪文を添付して提出すること。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。無断の座席移動も禁止。			

(講義)		科目名:生 活		講師: 小河直子	
科目概要・目標	幼児期から児童期へのスムーズな活動の移行を意図して、教科「生活」が設定された。「生活」では、幼児からの連続を踏まえて、具体的な活動や体験を通して自分と身近な環境とのかかわりを大切にしながら実感的に学んで知的な気づきを深めたり、自分自身や自分の生活について考えたり、基本的な生活習慣を身につけたりする。したがって、本科目では、「生活」の趣旨や目標および内容について学ぶ際に、幼児保育との関連を重視する。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校で教員として学校教育にあたった講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編			
提出課題	レポート設題1	幼児保育の基本と、教科「生活」の目標や内容との関連や連続について具体的に考察して述べよ。 ポイント「生活」は子どもの実感を伴った気づきを重視する。したがって、子どもの身近な環境との情緒的なかかわりが学びの第一歩となる。子どもの心と頭と身体活動が一体となった学びの姿を見出すようにすること。			
	学修のポイント1	教科「生活」の内容と特色について			
	学修のポイント2	目標や内容が2学年まとめて示されることについて			
	学修のポイント3	幼児の集団保育と「生活」の基本的な生活習慣を重視する。事の関連について			
	学修のポイント4	幼児の「探検遊び」と「生活」の学習との関連について			
	学修のポイント5	「生活」と他教科等の学習との関連について			
	学修のポイント6	「生活」の特質と気づきの質を高める事の関連について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション・シラバス・レポートの課題について理解する。生活の概要を知る			
第2回		生活の内容と特色について教科目標に触れながら理解する。学修ポイント1			
第3回		幼児教育と生活科の共通する点を「生活」の内容と特質を踏まえて考察する			
第4回		生活科の三層構成について理解する。スタートカリキュラム学修ポイント2			
第5回		生活科の内容と子どもの生活圏に関わらせる意義を理解する。アサガオの種を観察する			
第6回		生活科の内容学校・家庭・地域について子どもの生活環境との関連を探る。			
第7回		ごっこ遊びと生活の関連について学修ポイント4			
第8回		生活科の評価について知る。スタートカリキュラムの役割について			
第9回		学校探検の役割と意義・自分の成長の成長について学修ポイント3			
第10回		幼児の「ごっこ遊び」と「生活」の学習との関連について学修ポイント5			
第11回		生活科の教科書の使い方を知る。自分の成長を考える学修ポイント6			
第12回		生活科の授業の実際について知る。(教師の授業を見て)			
第13回		生活科と他教科等のつながりについて考える。タブレット端末について使用状況を知る			
第14回		まとめとテスト対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	課題意識を持ち分かりやすく論述できたか。		
	授業内評価	20点	レポート・学修ポイントの提出期限を守れたか。		
		20点	積極的に授業に参加できたか		
備考		はさみ・のりを持ってくる。振り返りカードを毎時書く、14回にまとめる。			